

[57]文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2339136>

出版情報：文學研究. 57, 1958-03-20. Faculty of Literature, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

文学研究筆者別索引

(筆者はABC順による)
(括弧内は 輯号を示す)

有田忠郎 「悪の華」の統一性について(五一)

千代正一郎 福田良輔 福田良輔 福田良輔

奈良朝時代東国方言の成立について (上)(中)(下)
(三七・三八・四〇)
奈良朝時代東国方言に関する諸問題 (四二)

古事記の純漢文的構文的文章について(四)
筑前国志賀白水郎歌十首の作者の複数性について(四六)

古代語法存疑(一) | エ列音の連体形 | (四八)
古代語法存疑(二) | エ列音の連体形 | (五〇)

奈良時代東国方言の周辺
奈良時代東国方言の首韻状態(一) | (五三)
奈良時代東国方言の首韻状態(二) | (五五)

春日和男 指定表現の様式 | 発生過程よりの考察 | (五〇)
「花桜をる少将」における語彙 | 小弓その他 | (五一)

「也」字の訓統考
「也」字の訓統考と提示法と | (五二)

聴覚および視覚による表現(上) | (五六)

春日和政治 片仮名交り文の起源について(一)

古訓漫談(二)

高野山にて観たる古点本(一)(七)

金光明最勝王経註本一本の古点について(一四)

法王帝統考(二)

古訓語彙小致(三三)

一八五〇年和訳馬太伝(三六)

文学科学概説(一) 片山正雄 国松孝二 愛と憎しみ「ニーチェと古典文学」の一章(三五)

運命への目覚「ニーチェからの脱出」(三六)

ドイッからの脱出
ニーチェの個人主義の基底について(三九)

ニーチェの革命劇をめぐって(四〇)

小島吉雄 明治初期の歌論(一)

宗祇の晩年(二)

新古今和歌集の選集態度と選集事業(五)

所謂石津本新古今和歌集に就いて(八)

新古今和歌集の美的情調(一八)

連歌博士所蔵の註釈問題(一一)

新古今和歌集の註釈問題(一八)

春日博士所蔵の註釈問題(一一)

後鳥羽院の御文学(二五)

新古今和歌集の御文学(二五)

<p>正岡子規とレツシング(三三三) 西芳寺の庭(三五五) われもまたアルカディアに(三六六) 砂に書く(四〇〇)</p>	<p>土と文芸(小室光弘)</p>	<p>前川俊一 ワーズワースのソールズベリーテインタイン旅行(三七七) ワーズワースに於ける自然観の進展(三八八) ワーズワース「辺境の徒」について上(四〇〇)中(四二二)下(四三三) バイロンの「ドン・デユアン」(四一一) 「壮大なる耳目の世界」 ワーズワースの空間感覚、其他について上(四一五)中(四五五) 英京雜記(五二二) ルソー詩群について(五四四)</p>	<p>松枝茂夫 鏡花縁の話―異国廻りを中心として(二二六) 蝶菴居士張岱(二八八) 菜天寥とその一家(三〇〇) 醒世姻縁伝の話(三二二) 郝蘭泉の隨筆(三三三) 兒女英雄伝の面白さ(三四四) 金聖英の水滸伝(三五五)</p>	<p>森永隆 謝恩(三三三)</p>	<p>目加田誠 填詞選釈(一三三) 民国以來中国新文学(一四四) 雅に於いて(二〇〇) 白樂天の飄論詩(二二三) 邨詩考附東薪考(二二五) 詩経に詠はれた自然界(二二八) 陳績甫(二二九) 春秋の断章賦詩に就いて(三二一)</p>
<p>詩教(三三三) 文心雕龍(三四・三五・四〇・四一・四七) 六朝文藝に於ける「神」「氣」の問題(三七七) 詩格及び詩境に就いて(三八八) 李笠翁の戯曲(三九九) 曹馬の戯曲(四二二)</p>	<p>王維の安史の乱と詩人たち(四三三) 樂府についての一考察―民歌と文人の詩との問題―(四四五) 水滸伝解題の問題(五〇〇) 聞一多評伝(五二二) 警海花(五四六) 禮教聖人(五六六)</p>	<p>永田英一 ヴィニーの哲学詩について(三三三) アンドレ・シエニエ(詩人と市民)(三五五) スタール夫人「ルソー」についての書簡(三六六・四〇〇) ルソー「對話録」余聞(四二二) ダランベール「ジュネーヴ論」(四四四) ジュネーヴ市民(四六六) ルソー「学問芸術論」の背景(四九九) ―「デイジョン論」アカデミー― アンドレ・シエニエの政治的散文(五〇〇・五五五) アンドレ・シエニエとイギリス(五一一) ルソー「ボームン狎下への書簡」(五三三) ―「ジュネーヴとの関係」において―(五三三) アンドレ・シエニエ覚書(二二)(五五六)</p>	<p>中山竹二郎 「貧者の友」ウイリアム・ラングランド(一一) イギリス中世の宗教劇(五) チヨウサアと現代英語(一三三) 散文韻律について(一九)</p>		

チヨウサアに於ける措辭的特徴について (二二)
 ウエイリアの英訳「源氏物語」(二二)
 チヨウサアその生涯と性格(三七)
 キヤンタベリ巡礼の世界(三〇)
 チヨウサアの二面性(三三)
 「サ・ガウエインと緑の騎士」について (三四)
 メリデイスの詩について(三五)
 チヨウサアの「トロイルとクレイデ」(三六)
 ソオロウとその生活観(三七)
 英文学と貧困(三八)
 イギリス宗教劇の世俗化(三九)
 ウエイクフイルド劇「第二の羊飼の段」(試訳) (四〇)
 「ヨルク劇」イサク人身御供の段(四二)
 「モルト・アルト・アルテュール」(四四)
 「頭韻式」モルト・アルテュール(四四)について(四七)

成瀬正一
 十八世紀に於ける文芸サロン(二・三)
 新旧兩派の文芸論争(七)
 モンテーニュと東洋の悟道(一六)
 旅行報告書(一六)

西田越郎
 シュテイフターについて(四三)
 ワルテル・フォン・デル・フォーゲルワイデについて(四五)
 ワルテル・フォン・デル・フォーゲルワイデの *Beate* と *Krenked* (四六)
 ゲオルク・ビュヒナー(四八・四九)
 ワルターの宗教性について(五〇)
 ハイナリツヒ・フォン・モールンゲン(五一)
 「ミンネの」形態
 ヴアルター・フォン・デル・フォーゲルヴァイデ(五三・五五)

野上豊一郎
 杉田玄白とその周囲の人達(一九)
 使徒瞥見(三五)
小野島行忍
 サツカ・パンハ・スツタンタ(三)

リツ・サンハラ(一〇・一一・一三)
 訳梵漫語(二三)
 梵詩メーガ・ツータ散文訳(二八・二九・三一)
 草枕そぞろごと(三三)
 梵語奈留別誌(三四・三六)

笹月清美
 天平八年の遣新羅使一行の歌(一三)
 古事記の文芸的性質に類する認識の発表(二七)
 本文居宣長の機構(二一)
 本居宣長の成立過程を示す二・三の伝本について(二六)
 語意考の成立過程を示す二・三の伝本について(二六)
 小林歌城のテニヲハ説(二九)
 富士谷御杖の言語理論について(三三)
 夕顔(四〇)

佐藤通次
 世界の劇性とゲーテの「ファウスト」(一)
 雅歌(四)
 生の悲歌(八・九)
 「思ふ」と「考ふる」(一〇)
 「教・性・格と体験」(二一)
 「老と親」とについて(二四・二六・一七)
 「創世神話とわが民族の原体験」(三三)
 「生む」の論理的構造(二五)
 「超」の事象的解放(二七)
 表現の二契機「見る」と「生む」と(二九)
 文芸の志氣機「ファウスト」研究に寄せて(三一)
 歴史の形態変化「ゲーテ研究の一齣」(三二)
 創刊の頃(四〇)

重松泰雄
 啄木の社会思想について(四三)
進藤誠一
 「ファイガロの結婚」とポーマルシエー(一)
 ユーリエース・ラビツシュの喜劇(六)
 スクリューの功罪(八・九・一一)

文学研究筆者別索引

<p>コメデイー・フランセーズの沿革(一四・一五) 十九世紀中葉以後に於ける仏蘭西風俗劇(一八・二五) 日本に於けるコメデイー・フランセーズ(二三) マリヴェールの結婚(二七) マリヴェールの覚書(二九) フランスに於けるイタリア人劇団の業績(三二・三四) 「ブリタニクス」から「五大力」へ(三三) 作者俳優(三五) フランス最古の喜劇(三六) モリエールの芸風について(ノート)(三九) マダム・ド・ロングヴェールの生涯(四〇)(四五) ルニヤールの喜劇(四三) ランブイ侯夫人のサロン(四七・五〇)</p>	<p>杉浦正一郎 「奥の細道」制作心理(四一) 花屋日記の著者俳人文晝の研究(四三) 鷗外博士の研究(一)「枯野家」と「枯野塚集」(四四) 九州蕉門の研究(二)「漆川集」と筑前嘉穂俳壇について(四五) 九州蕉門の研究(三)「松風」の巻「芹焼や」の巻(五二) 芭蕉連句研究(四)「松風」の巻「此の里は」の巻(五五) 芭蕉連句研究(五)「此の里は」の巻(五六) 素堂の真蹟二種について(五六)</p>	<p>高木市之助 吉野の鮎(二七) 国見芳(三〇) 牡丹芳(三三) 思出十年——私本位に書きつづるところの(四〇)</p> <p>玉島川仙媛放(三五) 酒仙供養(三六)</p>	<p>高橋義孝 芸術学、芸術史における没価値性の意味 ——ウエーバーの一論文を中心に(四〇)</p>
<p>トーマス・マンのフロイト論 その(一)(四一)(承前)(四二) 「統一ヨーロッパ」意識の現代ドイツ文芸理論における諸反映(その一)(四五) 文学と社会との連続・非連続の問題(四六) 芸術は「進歩」するか(四九) 能術の美学・序説(五〇) ルカチウスの論文「上部構造としての文学」に対する批評(五一) 文学研究に對する「精神分析」の諸寄与(その一)(五五) 文学研究に對する「精神分析」の諸寄与(その二)(五六)</p>	<p>田中 畷 表現の構造(一六) 万葉歌人の國家思想(一八) 行為と哲学(二〇) 日本文學の根柢としての自然(二五) 生成の根柢としての自然(二五)</p>	<p>豊 実 日本に於けるシェイクスピア紹介の歴史(一) 英吉利漂流邦訳考(四) 芥川龍之助とエドガ・アラン・ポオ(七) 基督教聖書和訳の歴史(一一) 故坪内博士の「英文学読本」(一二) 日本に於ける英文法紹介及び研究の歴史(二〇) 俳句と英詩(二三) 生活、文化の反映としての「英語史緒言の一節」(二六) 言語起源の問題——英語史「第一部概観」の緒論(二九) 日英語音の異同と国民性(三三) 人及び作家としてのシェイクスピア(三五) シェイクスピアの女性観(三六)</p>	<p>鶴久 上代特殊仮名遣の消滅過程について ——「野」字の変遷をめぐって——</p> <p>山内 晋 郷 六朝時代の展望(二)</p>

牟子問題の清算(四・五・六)
王鳴盛氏の仏典観(二)

矢田部 達郎

古語に於ける「てには」の意義(三三)

吉 町 義 雄

九州方言の特性(二・三・五)

島津斎彬の「ローマ字日記」と長田穂積の「菊池俗言考」(七)

博多仁和加用語に現れた活用一段化趨勢(一〇〇)

九州方言四段変格活用動詞分布相(二二六)

九州方言四段変格活用動詞分布相(二二六)

紫雲 鹿兒島方言文学四書抄(二八)

施福多「日本文庫及び日本文学研究提要」(三〇・三二)

大和口上言葉集(三四)

九州方言推量・打消助動詞活用分相(三六)

九州方言指定制・比況助動詞活用分相(三八)

九州方言敬讓・希求助動詞活用分相(四一)

九州方言「交語」と「八丈実記」の鳥言葉(四二)

イブシ・マールクの一詩語文法(四三・四七・五〇)

九州方言感動詞詠形分布相(四四)

九州方言代名詞詠形分布相(四四)

滑稽一寸見た夢物語(五二)

イブシ・マールクの一詩語文法(五)

イブシ・マールクの一詩語文法(五六)